



いのちのきんぐ

井の頭

吉祥寺

鷹

32号
2017年1・2月号

2017年(平成29年)1月1日

●編集・発行
いのちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 発行
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで

あと4ヵ月

INFORMATION

2017年1~2月

井の頭自然文化園

●彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.3 「西浦裕太作品展・カレラトイクトコ」

- 期間：2017年2月14日(火)~5月14日(日)
- 時間：9:30~16:30(彫刻館の閉館時間)
- 場所：井の頭自然文化園 動物園(本園) 彫刻館B館

作品コンセプト(作者より)

動物は常に私にとって、見たことのない景色を見せてくれる窓であり、訪れたことのない地や時間に想像を開いてくれる扉です。そして私のつくるものは、彼らが連れて行ってくれた風景の断片であり、おしえてくれた物語の一場面でもあります。



「たどり着く頃には月の言葉もわかるようになっていた」

●冬の魅力をお伝えします~VisitほっとZoo 2017キャンペーン~

- 期間：2017年1月5日~2月28日
 - 期間中のメインイベント
 1. 冬の動物園のみどころを「ほっとポイント」としてご案内!
 2. 駅と動物園・水族園でスタンプを集める「電車であらう! 動物園・水族園スタンプラリー」
 3. 冬の動物園・水族園のおいしさ満載!冬限定のメニューを販売。
- ほかにも、各園でいろいろな「ほっとイベント」をご用意しています。



詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- ツリマジック(第二公園) 1月21日(土) 1月22日(日)
2月25日(日) 2月26日(日)
- あおぞら実験室(井の頭池付近) 1月15日(日) 2月5日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 1月8日(日) 1月22日(日)
2月12日(日) 2月26日(日)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

井の頭かんざつ会

- 第141回「冬の野鳥観察」 1月22日(日) 10:00~12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

募集

井の頭公園の
古い写真を集めています◀戦前の井の頭池の茶屋
写真：徳田東助氏

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。

なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ

ふんしん出版 ☎0422-60-2211 (担当：宮川)
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その12

ネズミ



と 浅見準一さん



資料館の一角にネズミのコーナーがリニューアル。森林に生息する野ネズミのアカネズミやヒメネズミ、実はネズミの間種ではないハリネズミなどが、種類ごとにガラス越しののぞけるようになりました。

日本最小のネズミ、カヤネズミ(写真)は稲わらを丸めて巣を作り、昼間はそこで休みます。小屋は一見、稲がぼさぼさしているだけですが、「上からのぞくと、確かにいるんですよ」と飼育員の浅見準一さん。

ネズミの寿命は2~3年。繁殖も浅見さんの重要な仕事の一つです。バックヤードにはペアリング中のネズミのゲージや水槽がところ狭しと並び、ときおりカサカサ、カラカラと、動いたり水を飲んだりする音が聞こえてきます。今後展示予定のムササビの姿もありました。昨夏に生まれて早々に木から落ち、保護された1頭です。浅見さんの肩にしがみつき、ぶーぶーと軽く鳴いて甘えます。「けっこう爪が鋭いですよ。腕が傷だらけです」と浅見さんは苦笑い。

昨年アジアゾウのはな子を看取るなど、浅見さんは長く都内各園で大型動物の飼育を担当してきました。「大量のうんちを運んで膝を痛めるような重労働はありませんけれど、ネズミは細かい作業が大変。何より逃がさないように、ふたをしっかり閉めてます!」

小田原 滯 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩、三鷹市在住。

* アジアゾウはな子の銅像、原型完成 *

前号でもお伝えした、はな子の銅像を作ろうという活動ですが、ついに原型が完成しました。作られたのは、美術作家の笛田亜希さん。小さいころから井の頭自然文化園に通い、はな子とともに成長してきました。その笛田さんがはな子らしい銅像ということで作ったのが、この原型です。今回は、その写真を公開します。

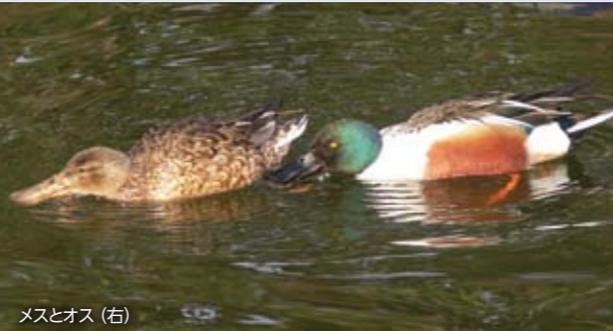


原型は横幅50cm、縦27.5cm、重量6kg程度。材質は硬くなる粘土です。この原型をもとに、富山県で原型師さんがさらにでっかいのはな子の銅像の型を作成しています

笛田さんによれば、50代くらいのはな子をイメージして製作したということで、少し若々しい感じがしますね。

吉祥寺駅北口にはな子の銅像を作ろうという募金活動、まだまだ目標の金額には達していません。ぜひお願いします。

井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉

その32
井の頭公園の生き物たち
ハシビロガモ

メスとオス(右)

いない理由

その名の通り、幅広で長くくちばしを持つカモです。カモ類のくちばしの両側には餌を濾しとるための「櫛(くし)歯」があります。ハシビロガモのそれはとても細かく、櫛というよりブラシです。上の写真のように、くちばしの先を水面につけたまま泳ぎ回り、先端から取り入れた水を両側のブラシを通して出すことで、プランクトンなどの微小な餌を濾しとって食べるのが得意技です。前の個体が水をかき混ぜるとプランクトンが水面に浮いてくるらしく、一列になって採食するのが見られます。



雪の日のハジロカイツブリ

井の頭かんざつ会 田中 利秋 http://tnt-lab.eco.coocan.jp

毎年来る冬鳥ですが、現在(12月)の井の頭池には1羽もいません。10月ごろは数羽来ていたのに、いなくなったのです。理由としてまず考えなければならないのは、餌の量でしょう。かいぼり29の結果、池の透明度が増しました。それはつまり、水中のプランクトンが減ったということです。かいぼり25の後にも水が澄みましたが、ハシビロガモは滞りました。そのときの彼らは、日中は水面に浮かんで餌をついばんでいて、日が暮れると上記の濾過採食を始めるのでした。そこで、昼と夜にプランクトンネットを引いてみたところ、夜のほうが圧倒的に高密度のプランクトンが引いていることが分かりました。日が暮れると、ゾウミジンコという小さなミジンコが大挙して水面近くへ上がってきていたのです。2月のことでした。先日、夜の同じ時間帯に同じ場所で同じ方法を使ってプランクトンを調べてみました。採れたのは少数のケンミジンコだけでした。今後ゾウミジンコが増えるのか、それが増えればハシビロガモが戻ってくるのか、注目しています。

もっとも、私が見た限りでは、近隣の公園の池にもこの冬はハシビロガモが少ないようです。10月末の皇居のお濠には多数いました。カモは飛べるので、より良い場所があればそちらに移動します。広い範囲を調べて比較しないと、ハシビロガモが井の頭池にいない本当の理由は分かりません。



ブラシのような櫛歯

32

ちょうどいい数

♪楽園はよみがえるか!



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

絵せのうさこ 文瀬能けい子

せのうさこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

連載絵本 子狸ボン太の巻 最終話

新しい年が明けると、大騒ぎした犬の飼い主達は、狸の事も忘れたようです。井の頭池ではカイツブリのツブ助がカップルでせっせと巣作りをしています。カワセミのミドリは幼鳥に小魚の取り方を教えています。ボン太もこの池で、弁天様に守られながら母親と頑張り生きていこうと思えました。